

# 教えの庭から

4月の好天の日に、妻と大黒山（315m）に登りました。頂上からの眺めは良かったのですが、登山の途中で、驚いたことに杉の大木が4本ほど根からひっくり返っていました。その根の部分を見ると、短い根があるだけで、大木を支えきれないだろうと思われました。5年前に登った時は、見なかった光景です。また、5月の初め、和久羅山（261m）に登った際にも、杉の大木が根からひっくり返っていました。その根の部分も、大黒山の木と同じく短い根が見えていました。最近では、異常気象の影響で、大風や大雨などがありますから、根が深くない大木は、支えきれず倒れてしまいます。この後、仁照寺境内にある榎の大木を、大風で倒れて近くの墓などに被害を与えないように考

## 八風吹けども動ぜず天辺の月

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

えて、切り倒しました。切・定（禅定）・慧（智慧）の前に、木に向かつて、般若の五つは、煩惱を除いて悟りへ向かわせるのに優れた若心経を唱えました。

これらのことをきつかけに仏教的に「根と風」について考えてみました。岩波仏教辞典によると、「根とは、機能・能力などの意。



挿絵 平尾恵郷

目覚めても、芽生えても、根が深くないと大風で倒れてしまいます。

自然に吹く風ばかりでなく、人生にも風が吹いていると言います。「八風吹けども動ぜず天辺の月」という禅語があります。八風というのは、利・衰・毀・誉・稱・譏・苦・楽の八つ煩悩です。利は利になつくと、衰は意に反すること、毀はかげでほめること、誉はかげでほめること、稱は面前でほめること、譏は面前でほめること、苦は心身を悩ますこと、楽は心身を喜ばすことです。私たちは、もったいなくて落ちてこみ、損したといつて落ちこみ、頂天になり、馬鹿にされたといつて消沈しています。自分の心に吹き荒れるこの八風に、いつもグラグラしています。

ある作用を起こす力をもつたもの。感覚を起こさせる機能または器官として眼・耳・鼻・舌・身を五根といひ、これに意根を加えて六根という。また信（信仰）・勤（精進）・念（念仏）

を聞き修行し悟ることについて「能力・素質をさす」とあります。このように私たちの信仰の根に五つあり、五根と言いますが、それ故にまた五力があるのです。いかに信仰に熱烈になつて

横田南嶺老師（円覚寺派管長）の法話によると、「まが今吹いているのかを觀察し、八風に倒されないように、信仰の根を深くしてゆきたいと思ひます。」

「南無観世音菩薩」と心に念じて、五力を強くし、八風に倒されないように、信仰の根を深くしてゆきたいと思ひます。